

## 平成 24 年度事業概況報告書

平成 24 年 4 月 1 日

平成 25 年 3 月 31 日

平成 24 年度は、その年度後半の平成 24 年 12 月の総選挙の政権交替により大きな変化が見られた年度であったと言える。原子力発電所の再稼働の可否が国民的な議論となっている一方で、電力の需給状況改善のための原油輸入の価格高騰と量の増大は貿易収支にも悪影響を及ぼしている。平成 24 年 12 月に実施された日銀全国企業短期経済観測調査の業況判断指数（D I）によれば、全産業とも平成 24 年 12 月まではマイナスとされており、平成 25 年 3 月予測でも改善の兆しは見えていない。一方で 12 月の政権交代で誕生した自民党政権はいわゆる「アベノミクス」により、低迷していた株価の上昇や過剰な円高の修正を行い、企業収益の改善につなげて給与へ反映させるという好循環を実現させたいとしている。平成 25 年 2 月の内閣府の月例経済報告によれば、『景気は一部に弱さが残るものもの下げ止まっており、先行きに付いては当面、一部に弱さが残るものもの輸出環境の改善や、経済対策、金融政策の高価などを背景に、マインドの改善にも支えられ、次第に景気回復へ向かうことが期待される。但し、海外景気の下振れが引き続きわが国の景気を下押しするリスクとなっている。又、雇用・所得環境の先行き等にも注意が必要である。』と報告している

当協会会員の主な事業領域である乳等に目を転じると、農林省発表によれば生乳生産は 14 カ月連続で平成 24 年 11 月まで対前年同月比でプラスとなっていたが、同年 12 月以降マイナスに転じている。また発酵乳の消費も同じ時期に堅調な伸びを継続しているという明るいニュースもあった。

当協会は平成 23 年 12 月 4 日に昭和 36 年 12 月 4 日に社団法人日本牛乳キャップ協会として設立登記を完了してから 50 周年を迎え、また平成 24 年 3 月の内閣総理大臣の認可を経て、平成 24 年 4 月 1 日に一般社団法人への移行登記を完了した。本年度は一般社団法人移行後最初の年度となり、平成 24 年 5 月に実施した 50 周年事業の実施を一つの節目とした、新生一般社団法人日本乳容器・機器協会スタートの年度となった。一方で懸案であった乳等省令の改定については、平成 24 年 3 月 2 日に開催された厚生労働省器具容器包装部会において、当協会が厚生労働省に文書で要望を行った方向性が承認されていたが、平成 24 年 4 月 11 日付厚生労働省通知食安基 0411 第 1 号「乳等の販売用の合成樹脂製容器包装について」及び平成 25 年 3 月 12 日付厚生労働省食安発 0312 第 4 号「乳及び乳製品の成分規格等の一部を改正する件について」でこれが具体化された。また技術統括委員会がこの改正を視野に従来の 8 基準を 1 つの基準に統合した新自主基準を取り纏め、3 月 15 日に開催された平成 24 年度第 2 回事業企画運営委員会に報告を行い同意された。これを受け新自主基準は厚生労働省食品全部基準審査課に提出され、またホームページに掲載されている。また事業企画小委員会は来年度以降の直近の課題に対する対応及び「平成 30 年度のゴール」とこれに至るロードマップについて、中期の観点からの提言を取り纏め答申として同事業企画運営委員会に提出している。

本年度の具体的な活動は以下の通りである。

1. 平成 24 年 4 月 1 日に一般社団法人への移行登記を完了した。また 50 周年記念誌「深化と拡大そして未来へ」を発行した。
2. 平成 24 年 5 月 23 日に一般社団法人としての第 1 回社員総会を開催し、また併せて 50 周年記念式典を挙行了。
3. 平成 24 年 10 月 31 日に小人数円卓型の第 3 回乳機器部会懇話会を実施した。
4. 平成 24 年 11 月 16 日に本年度で 3 回目の開催となるオープンセミナーを「企業と消費者にとってあるべきリスクコミュニケーションを考える」をテーマに継続事業として実施し、非協会員を含む約 80 名の参加者があった。
5. 平成 25 年 2 月 26 日に会員向けの情報提供に特化した会員向けセミナーを消費者庁より講師を招聘して実施し、会員約 60 名の参加者があった。
6. 協会だよりとホームページの内容の充実に取り組み、協会だよりについて外部執筆者の充実を図った。またホームページもコンテンツの充実を図った。
7. 事業企画小委員会は平成 25 年度以降の事業企画運営委員会と理事会の役割分担と構成、財務基盤の強化及び日本乳容器・機器協会の平成 30 年度のゴールとそこに至るまでのロードマップ等の項目についての答申を取り纏め事業企画運営委員会に報告した。
8. 技術統括委員会は乳等省令改定の方角性を視野に入れた自主基準の改定案を取り纏め、事業企画運営委員会に報告した。
9. 厚生労働省の関連部署には適確な情報提供を行うとともに当協会に関連する情報収集に努めた。また必要な収集された情報については関連する会員にタイムリーな情報提供を行った。
10. 当協会の関連する重要な事項について、一般社団法人日本乳業協会、飲用乳公正取引協議会、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会、財団法人日本乳業技術協会、社団法人食品衛生協会、プラスチック衛生連絡協議会などとの必要な情報の交換を行った。

このように当協会は厚生労働省をはじめ各方面のご協力と会員各位のご尽力により、新生一般社団法人として活動を開始することができた。今後も国民の健康と食の安全に貢献していく取り組みを主軸に活動を進めていきたい。

以上

## 附属明細書：事業活動の詳細

### 1. 第1回定時社員総会

平成24年5月23日(水)第1回定時総会開催(KKRホテル東京)会員38社出席(委任状出席を含む)

- (1) 採択事項：①社団法人日本乳容器・機器協会平成23年度事業概要報告及び決算書の件②一般社団法人移行の件③財務基盤の強化と会費制度見直しの件
- (2) 報告事項：④平成24年6月1日以降の協会運営体制の件⑤50周年記念事業準備報告の件⑥平成23年度事業計画書及び収支予算書について

### 2. 50周年記念事業

50年史「50th 深化と拡大そして未来へ」を発行し、ホームページに映像短縮版を掲載した。平成24年5月23日(水)に記念式典を挙行了。50周年記念表彰が行われ、厚生労働省医薬食品局食品安全部長名で7名、会長理事名で3協会合議体が表彰を受けた。

### 3. 主な活動

#### (1) 技術統括委員会

自主基準見直し作業、協会関連技術事項(乳等省令等)の意見集約活動、ホームページからの技術的等合わせ対応、FAQ回答作成等を行った。

#### (2) 乳機器部会

第2回乳機器部会の開催。顧客企業からの講師を招聘し会員と情報交換を行った。

#### (3) 事業企画小委員会

日本乳容器・機器協会の平成30年度のゴールとそこに至るまでのロードマップ等を纏めた答申書を事業企画運営委員会に提出した。

#### (4) 乳容器部会

技術統括運営委員会の自主基準案につき討議を行った。

### 4. 官公庁・関係団体などとの取り組み

- (1) 厚生労働省…乳等省令改正関連のフォローアップ、関連情報の提供。
- (2) 関係団体等…(社)日本乳業協会への質問事項に関する情報提供、(社)全国発酵乳乳酸菌飲料協会、プラスチック衛生連絡会との意見交換。全国飲用牛乳公正取引協議会への協力(専門部会参加、情報交換等)。

### 5. 広報事業の取り組み

会員に対する情報提供と非協会会員を含めた普及啓発事業の実施

#### (1) 第2回オープンセミナーの実施

公益目的事業として第2回オープンセミナーを「企業と消費者にとってリスクとはなにか」を実施し、ホームページ上でも広く案内し、非協会会員を含む80名弱が参加した。

#### (2) ホームページ

特に不特定多数を意識したコンテンツの充実に努めた。オープンセミナーについて

はホームページからの申込を可能とした。

(3) 協会だより

外部執筆者に寄稿を求め、充実を図ると共にホームページとのコラボを継続した。

6. 会員数

平成 25 年 3 月末現在	正会員	38 社
	賛助会員	13 社及び 3 団体
	計	51 社及び 3 団体

7. 会議等の開催状況

(1) 通常総会	平成 24 年 5 月 23 日	1 回
(2) 理事会		2 回
(3) 事業企画運営委員会		2 回
(4) 事業企画小委員会		10 回
(5) 技術統括委員会		10 回
(6) 紙コップWG会議		1 回
(7) 紙栓WG会議		1 回
(8) 紙容器WG会議		1 回
(9) 樹脂容器WG会議		1 回
(10) 樹脂ふたWG会議		1 回
(11) 蓋材WG会議		1 回
(12) 乳容器部会合同会議		1 回
(13) 乳機器部会懇話会		1 回
(14) オープンセミナー		1 回
(15) 関西ブロック会議		1 回
(16) 会員向けセミナー		1 回

以上